



公福堂
道子
著
乾



5
2249
1





5
2249
2

^{ウゴリ アマリ} ^{ミスバカルシナノ} ^{クニシナサカル} ^{ミコシ}
 味織の綾を結うー。二葉の科聖乃國科板を二葉
^{コトタニ} ^{タス}
 道に結ひたまふを以て言霊の助け給へ給うや言
^{アラ} ^{タニ} ^{ニキタニ}
 世のよきはよき教ありを言霊の助け給へ給うや言
^{シナサカ} ^{ニチ} ^{ノホリサ} ^カ ^{ハシ}
 科板とて言霊の助け給へ給うや言
^{ヒガ} ^{タクニ}
 とうん抄ふんあゝむ人びを結ひて見て雙を二法

明治四十一年五月十四日
富山房紀念氏寄贈

事速だご一道の...
...
...
...
...

楫取景良

...
...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

目一國にふるる海東兎のしるしをいふに海にふるる海東兎のしるしをいふに

目一國に西にけり板相事にはり海例の友ありしをいふに

目一國をふるる海東兎のしるしをいふに

ありしにふるる海東兎のしるしをいふに

とつものふるる海東兎のしるしをいふに

小島をふるる海東兎のしるしをいふに

ふるるものふるる海東兎のしるしをいふに

イサソフ
漁とて川夕柳波杉町がゆるるふるる海東兎のしるしをいふに

ありしにふるる海東兎のしるしをいふに

ふるるものふるる海東兎のしるしをいふに

ふるるものふるる海東兎のしるしをいふに

ふるるものふるる海東兎のしるしをいふに

ふるるものふるる海東兎のしるしをいふに

ふるるものふるる海東兎のしるしをいふに

ふるるものふるる海東兎のしるしをいふに

① 國の邊なる家、葉茂かまや、家ぞこほもびく人もいふ
おろくは、相生の膏、磯づりや、家スツキ、新緑、白保かひくも、いふ
おによもあまの

おろくは、國の邊、葉茂づりや、家、葉茂、まじり、いふ人もいふ
おろくは、相生の膏、磯づりや、家、新緑、白保かひくも、いふ

② 國の邊なる家、葉茂かまや、家、友人、いふ人もいふ
おろくは、相生の膏、磯づりや、家、新緑、白保かひくも、いふ

③ 國の邊なる家、葉茂かまや、家、友人、いふ人もいふ
おろくは、相生の膏、磯づりや、家、新緑、白保かひくも、いふ

いふ人もいふ

① 國の邊なる家、葉茂かまや、家、友人、いふ人もいふ

おろくは、相生の膏、磯づりや、家、新緑、白保かひくも、いふ
桃園寺におぼれ、あまのひトセウ、友梅が、まき、おろくは、いふ人もいふ
いふ人もいふ

② 國の邊なる家、葉茂かまや、家、友人、いふ人もいふ
おろくは、相生の膏、磯づりや、家、新緑、白保かひくも、いふ
おによもあまの

③ 國の邊なる家、葉茂かまや、家、友人、いふ人もいふ
おろくは、相生の膏、磯づりや、家、新緑、白保かひくも、いふ

おろぐ ① ② のこたは 終る 舟が ちや した たら へ ちや ちや の ちや ちや
ちや ちや ちや ちや ちや

③ ④ ^ニ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒

ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや
ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや
ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや
ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや

ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや
ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや
ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや
ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒
又 ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや
ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや
ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや

行 旅 記 卷 之 一

四

片歌集の巻頭

Blank page with faint bleed-through text from the reverse side.

片歌集のはしり

事ハか望むおのひまをよきたれとくまづちのこゝ
りりを渡りけぬ侍うそのはしり

心ヲ念ミテコトセ片歌ニ定タル始終ヲ
書給フナリ題号モ又此文段ヨリナレリ
時ハまほしき歌のはしり

ひとくさうのこほり

吹くとも勢くばうぞめさう

あるの園をあらばてゆくものありぬきさをたぐひ
くくをけひあるをばらるる園にうつむくと海を

片歌集の巻頭

イガナフ

〜〜のりふむば一社園六川をかまると。此川ハカぬの

あふれをぬれ園し。

スビテ可美都氣勢上野
之母都家野下野

不考の孫とあり〜〜れ孫も見えざるは

「吾し」 あがゆくか〜〜たん何さぬこの孫かも

かぶ〜ものひ〜〜ゆる孫のさび〜〜まに

「馬士し」

〜〜やつ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〇かごのものの冠辞ひひ〜〜ひひ〜〜してナド〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜とあ〜〜〜や〜〜〜を〜〜〜の人〜〜〜

その友なるま〜〜りり

小泉てふ市に古城の孫あ〜〜るその人お〜〜りて。如何ナル人
コヒウテし

つこの軍にか〜〜あ〜〜む〜〜と〜〜あ〜〜は〜〜〜が〜〜成〜〜方〜〜九

秀親主。源孫は末にほ〜〜が〜〜され〜〜ひ〜〜〜ま〜〜と〜〜ひ〜〜

にもるい〜〜と〜〜か〜〜

〜〜のぬ〜〜た〜〜〜ひ〜〜や〜〜い〜〜〜〜ひ〜〜を〜〜た〜〜

花はくた〜〜と〜〜る〜〜に〜〜孫〜〜の〜〜

あ〜〜の學校に〜〜〜〜。孔子れみか〜〜ちをぬむ

玉照は仮名にもる〜〜様〜〜の那

西石ぬーをやぢのあほいーいりーいすわいあほ

目いーいよむ 此文六 皇朝ノ書ニテ世ニ 行ハテノ稀ナル物ナリ

かくあはれあひいぢ彼林の園城下ヲへもサス けいふその日いーい

けいごりー

トゴ けいまるまといけいーけいーと桃も花

すいーた田いあはれ相生あ橋なごいあうりいああけい

タケ けいまるまといけいーけいーと海なる船あま

あはれいーいあまいけいーい

きゆく人あなくあはれいけいーいあまいけいーい

あまいけいーいあまいけいーいあまいけいーい

けいーいあまいけいーいあまいけいーい

「カメ」ウケテシカケテノ意 あまいけいーい

あまいけいーいあまいけいーいあまいけいーい

カウクトフミナラスカラウス ノ音トツキタラ取り用ウ

あまいけいーいあまいけいーい

あまいけいーいあまいけいーいあまいけいーい

載むと云 此丹子ハ二夜同答ト云片歌ノ起レヨリ近キ世ニテノ論アリ

さて花ハ八重様にもさくくびくもやけさけれるあま

あづは 「江戸」オホキ 大株とよとなれハあゝもほそこも吹さ

まげーあほやうに名残多くあたまぬ

りまゝいハなれや由ぬまはくし後身

ヤハのさうけれハのろぬ 冠舞しやそくまやまの末やは田。百さうじにナトツク百ニラズハナト云テノ意

言寄のよにーあやう

夏暑くもそへゆく。おき命あづは。をりまゝく。そのあま

あほじるおがたよのいおはこもく。あまをぐうかた

舞うもあえてうまひのよまゝいしおあまハいほぞ

かー

るもあへてなまゝさうて 「サキメハム」

なりおまろくハ物まのまゝいし 「サキメハム」

ひままのほろぐえおお不ーりあやまひまは六日こ

ほまは八雨のぬまいでー 「アサ」

やうし 「ヤカシ」 ちまをばやゆまゝあまおあまのうら

さゆにえれたいとかしこもさたむむぬひ

イトオソロレキ山ノ
形ナリト云フイ

まき堅なまをむらひひでくものくに

「羣山」 「秀テシ」

「雲ノ上」

「荒振」アラビシ

あゝゆきまゝあゝゆきまゝ

壁ノ如クト云フイハ一トクサハ山ノ
勢ニテ見ルカ如ク其終ニヨシ出又ハ

さてうきひにのぼれいまほはくしく心かけはめ

「ハ發語探リ」

ぐくせむ。 碓日ノ文段ハ日本紀

碓日ノ文段ハ日本紀
景行紀ヲ借用并々々

あまのりいさづきあひだ

喘シ道峻レノ息

「馬ナヤム」

キレスルアリサ

いさだふのやにだちまらまのそ地もな

ゆくひまをいまをえちぬ本は芽か

やぐさうちあゆほにきけをほに次のやうで傍ふやを

ぬきへくまをいそとんれ

小枝シ景行紀ニキ
ハラチトアリ

りくもる地にきき強く横りりり日暮びと

「幸苦シ」

からくくくはうのうまやん

あまのいそけれきりさんをいほぐうけりくやをい

すくさ

あはすーとらうゆかくーてまきま

まきまはゆる地ひのうきひなりみなる

あつちのうまやと梅をみぢ

あつちのうまやと梅をみぢ

あつちのうまやと梅をみぢ

あつちのうまやと梅をみぢ

あつちのうまやと梅をみぢ

あつちのうまやと梅をみぢ

あつちのうまやと梅をみぢ

あつちのうまやと梅をみぢ

あつちのうまやと梅をみぢ

あつちのうまやと梅をみぢ

あつちのうまやと梅をみぢ

あつちのうまやと梅をみぢ

あつちのうまやと梅をみぢ

あつちのうまやと梅をみぢ

あつちのうまやと梅をみぢ

あつちのうまやと梅をみぢ

本草綱目拾遺

卷之

松の皮を削りて干し置くと其の皮は白く成りて其の味は苦く其の性は寒し其の功は風を散らし痰を消し肺を潤し腸を導く也

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

かた

うづあはれ

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

本草綱目拾遺

卷之

モハヌコトキヒロユキ

トモタメシラナ

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

かた

うづあはれ

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

あはれが日するに二日ばかりのちまひり

本草綱目拾遺

卷之

二日坊八津ノ人ノ草大人ニ百セント
道スガカラ尋問ト来レルト

片歌集

あつめは有満^{アリチカ}をあつてをたててこのがけ

何者く嫉妬やゆどぶやしく

嫉捨山^{イノ}大和物語
二出ルニ爰ニ鬼名ス

これかの婦^メがはははれりりーしを思ひてい(はこ

祖又祖母もい時をく^田この郡

田くある歌べー^田く人まをなつた^田だまのいよ

あはの清うりしかたなの快てかのいよみでこのあは

に田くははばをさうしく

川中流をさく古記軍記跡を見保

たしく聖に入るくも田くあつた

三越^{ヲサス} 流べに流るく先昔まのいよはあやういぬ

水(はく)再いよははく

流強

山ハ音を踏くもく^田ハ夏まのいぬ

くぐひをは出ほく老くり夏本

流ハ流るく^田はま

あつて小あが

片歌集

七

言田のくまをほむ^ニあ^ニ四く歩はうりのさかあいのほりいも
あふりてふさふさばるるじびりてびりてちた^ニあ^ニほりいも
うの花やきりかきりーきりあふ

何れいあふ^ニあ^ニほりいも
あふりてふさふさばるるじびりてびりてちた^ニあ^ニほりいも
うの花やきりかきりーきりあふ
あふりてふさふさばるるじびりてびりてちた^ニあ^ニほりいも
うの花やきりかきりーきりあふ

うつくおのううかふる今^ニあ^ニほりいも
あふりてふさふさばるるじびりてびりてちた^ニあ^ニほりいも
うの花やきりかきりーきりあふ

梅古ハ人ノ句アハ照ハ續グトイハモ其後ヲマヤテ巻テヲ物ト
ナスコノ難ヲコト片事ノ理リニカナヒトモ大人ノ感嘆ニタマフコ
あふりてふさふさばるるじびりてびりてちた^ニあ^ニほりいも
うの花やきりかきりーきりあふ

あふりてふさふさばるるじびりてびりてちた^ニあ^ニほりいも
うの花やきりかきりーきりあふ
あふりてふさふさばるるじびりてびりてちた^ニあ^ニほりいも
うの花やきりかきりーきりあふ

あふりてふさふさばるるじびりてびりてちた^ニあ^ニほりいも
うの花やきりかきりーきりあふ

あやしくあはれ

あまのすにカキあり夏本とら

うらもさくらのあまそこのまじし眞つみをのさひはれ

あまのすにのあまらー南北新法をのがこ「詰し」なご

かしくあまのすにのあまらー丹子を板にのまじしあま

あまのすにのあまらーあまのすにのあまらー丹子を

あまのすにのあまらー

新法のあまのすにのあまらーあまのすにのあまらー

あまのすにのあまらーあまのすにのあまらー

あまのすにのあまらーあまのすにのあまらー

あまのすにのあまらーあまのすにのあまらー

あまのすにのあまらーあまのすにのあまらー

あまのすにのあまらーあまのすにのあまらー

あまのすにのあまらーあまのすにのあまらー

あまのすにのあまらーあまのすにのあまらー

あまのすにのあまらーあまのすにのあまらー

ひそくがらもあてるほみひ先からさるけり路かへ
ひの名もさへばゆふかこつひくさちまの侍に
不とぞのきりさるる山も

ソレト上聲
ヨミテ熟視

ふよくさるる山も

わの山もさるる山も

序歌いえよまじりて日の暮るる山も
あやし地をばさるる山も

信越ノ界也

さるる山もさるる山も

「初月」
後の月も入るる山も

ありまもさるる山も

いそ山もさるる山も

たまへくお山もさるる山も

さるる山もさるる山も

山ノ頂ニ雪ノ一ノ残り
タレバカリ云ヒナセリ

さるる山もさるる山も

あしか山もさるる山も

越ノ国ノ旋行女婦ヲ以テ送リタルコト
ヲ爰ニテ娘ニ物カタラサマヲ書給ヘリ

行状

此段ハ大人ノ趣意シヤビ人オホクハサブルコヤウノ者ニ戯ラリトモ。人笑ヒト言モ出サズ。過ル者多ク其偽リ心ヲ悪ニテ此ヲ設ケタルシ。

ひらねもさくみさるまのころ。さしをばくとおろいび。まきに

もあまのいよを。あははあけがまにいとぬのを。情をこめつたかく
ゆとあはれにかいつけたま。 サブルコ 梅行女婦 三タリ四タリ 大人ヲ送リイデ。 或ハ雲ノ峯 杜鵑 復木立ナドノ句ヲ作

テ。各フトニコ紙ニ書附出シタルシ。フトニコ紙ハ古キ物語ニモ出タリ。古ノ人ハサブルコウ
者ニモ贈答ノ歌ナドヲハ憚ル取モナリ書出セル其真心ヲ賞シテ。此段ヲアラハセリ。
猶復讀シテ 「不善心」 あやーかまーやどろろまーが。今ゆく一重なく 「何トテ」

おりの出しづさるにばえつるおはよみいでばはるぞいで

かくあまのいよを。あははあけがまにいとぬのを。情をこめつたかく

ゆとあはれにかいつけたま。 「ナアリケル事カイト」 あやーかまーやどろろまーが。今ゆく一重なく 「何トテ」

おりの出しづさるにばえつるおはよみいでばはるぞいで

かくあまのいよを。あははあけがまにいとぬのを。情をこめつたかく

ゆとあはれにかいつけたま。 「ナアリケル事カイト」 あやーかまーやどろろまーが。今ゆく一重なく 「何トテ」

おりの出しづさるにばえつるおはよみいでばはるぞいで

かくあまのいよを。あははあけがまにいとぬのを。情をこめつたかく

ゆとあはれにかいつけたま。 「ナアリケル事カイト」 あやーかまーやどろろまーが。今ゆく一重なく 「何トテ」

何ともあはれなるものぞあかはさちうなまにひらきぞ

媛^{ヒメ}よれにきこかうくげとをまおにのりしほひそまた

ひえおつぎてあうくおのころけりかおのりしほひそまた

相^{アヒ}てニテ後ニ閨中ノ交情又ハ私戯ノ一トテモアカラサニ二語リテ笑ヒ嘲ル者多シ

古人ノ道ニアラス男女ニヤゴトヲ以テ交ハハ載スベキニアニス閨中ハ語ルヘカラズト

云フコトヲ趣意トセカ故ニ此詞ヲ出スモ前段ニ云フ如キハサモアヒシ

古今ノ人實不實ノ心得ニ違ヒ凡ソ引合テ味ヲ知キ

にてうおのりしほひそまたうらうらうとさかぬものぞ

ワレハ黒媛山ノ
寧^{ニギハヤヒ}ト云フヲ

カスステテ云フ猶
下ノ段ヲ見ルベシ

たふはまにあはれなるまよひも君をおもひてほひ

あらしあはれなるまよひも君をおもひてほひ

るりまうおとたのまへりそく

黒媛山ノ靈ヲ云ハントテ楚襄王ノ事ヲ
借用ウ宋玉高唐賦云昔者先王遊高

唐夢見一婦人曰妾巫山神女也

朝爲行云暮爲行雨

一センカタメモナリト云

たらしはまのあはれなるまよひにぬだうぬち

くほひえん山ぞゆへあらしぬ

ぬだうぬちツクキトツク冠舞レコノ外ニモ

とばうらうらとどいてはらむらひひまをろくる雲^{物ノ}

夜明ントモテ

白クナルナリ

あらしあはれなるまよひにぬだうぬち

端正ノ字意アガ
ヤカナルナリ

ハシノミ
ハシノミ
ハシノミ

媛トメの里ノころのまじく清ハかく山の歌

「能御ノ字ニテタル

かくたれし心ハをえてかざるあり

古キ物カタリニカガユニシト交ル
取アリカガハ籠ニヨシハ乗物シ

今ノ轡ニ
アタルベシ

控カウカキシへ心ハをのころまじく清ハかく山の歌

ふけぬころのまじく清ハかく山の歌

見ミゆもまじく清ハかく山の歌

昔向じウシ
ロニナルナリ

まきのころのまじく清ハかく山の歌

心ハを

かつむしゆがちぢりおまじく清ハかく山の歌

猿サたが里ノまじく清ハかく山の歌

心ハを

ふきくころ冠カのたきかに清ハかく山の歌

ほろしハを

ワガニニ
皇朝ノ学ノ道ニ歌ノ

久クくハを

ゆが里ノまじく清ハかく山の歌

ふかハを

くハを

いハを

ふハを

ハシノミ
ハシノミ
ハシノミ

友人子母をみて 子鳳ハ京ニ住ム人シ。頼方ノ一ニツキテアヅニクタルヲ。蝶夢伴ナト出シシ。井テハ伴ナシ。此兩子吸露菴ニテ

出合ニ雅談セシ ト契リタルナリ みやこをとりし家には遊びむとくば藤屋藤をもちる

ひしぐだのひしほをさしみる序がもゆし強ふそのぬみい

猿をにのそへおまはるる 「アツラハシ」

まのまにええは秋山のけしもささうし孫をまほすあへて

そがや家雨のゆべとたが 「ツガク雨」 此一段前ノ雲トナリ。雨トナリトナリ。段ヲ受テ。前ヲ照シ後ヘヲ結ブ

み日六日あましくそこまるとの侍

かくてまはるるいど

あいまこゝるてあまふべしきけさの

けいさけはるかまのひつろくえあはるるまをぬふちひまはるる

を大きな家がよひて家のうちをうけはれたてておはりに

あはるるかけるとまはるるあやしおはるるのまをぬふ

あへていよ シユハ醜シツハ助字シ。悪トナリ古キ詞シ ぬるるまはるるひまのま

はるるまはるるまはるるまはるるたまか

まはるるのまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

意一ともうちかいらふ

つきの日も同じ百重まういそはれ

齊藤氏の字
ニテ雨石ト云フ

能をばづら

志候いとい後思ふ人れなくこま

あつたむねのまぶらぬあつたむねのまぶらぬ

志げりあひてさう

家さほ色おとろく夏あつた

とてあつたものよに結人ははらう馬貞は

夢くゆく一音法師もくあつたか

あつた板もあつたあつたあつたあつたあつた

静流はあつた

揮溪ハ近隣安中
テフ取ノ人ナリ

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

此狐窟ノ事ハ此近キワタリニ棹行女婦サブルコノ事ヲ借テシタコハ俳人
常ニ周キ取ニ居テウレヨシトオモヒテ明ラカナラシメテ求メズ且人ヲ惑ハス
一ハ棹行女婦ノ淫聲ヲ以テ人ヲ濫カシ狐ノ美婦ト變化シテ男ヲ誘ユカハス
誠ニ耻ベキアラヌヤト心ニ憤ヲ發シテ古ニ依テ今ヲ正シ片歌ノ各月ヲ世ニ
施サント狐ノ窟ニヨセテ此ヲ書給リ
コノアツタ人ハ熟讀玩味スベシ
ゆく人をさかてに
人かまてまのあつたあつたあつたあつたあつた

たるぬるまゝにあらがさるるのしほあはれしあはれに
 木垂し枝ノ タレタルナリ 若くは細く夏のことらけすしのびて水は流
 そよとなく寺かへ見ゆる水もあまきさかき後やうれ
 下もあまきさかきおぼしき水のうらむらむらびあやしく
 光る物のまほしきことせよゆめを志ほふてのぼるものこ
 ぞよのまほおほくぬてあはれしあはれに キツトモ又 キツ子モ又
古キ物語ニ燕ノ古クガ ナト右ニナラヘリ 春こそあまきさかきあはれ
 とも目こぼおぼしくともあまきさかきあはれに

しろよまをさく矢のぞきあはれしあはれに
 うらむらおほくぬてあはれしあはれに
 ありがやま 耻し 人の心なまじわらほむらうくおんく
 志ほるまゝにまどあたりひまあはれをきて系ひさかして
 おぼるまゝにまどあたりひまあはれをきて系ひさかして
耻カシキコシ今 用ニ兼ハ聊違 春こそあまきさかきあはれに
 ままのいそよそくあま カキ 櫓もろくならたむらむら
 ままのいそよそくあま カキ 櫓もろくならたむらむら

上野の歌

西にたつとていふはすくはせにらむらむとておのひたらしを。
 よしゆのい人におそりゆく。ひらめなづら田舎ノを。
 へはとおほえしにたつとてぬおにささむらむとていふ人より侍。
 へさおとつかさふはにあの目も唐ふる。
 したるなみとるなくたてのひらめなづらにほりけけつ。
 たはととてくぬとてぬおにささむらむとていふ人より侍。
 やまおとふにらむらむとていふ人より侍。
 うきもめとるなみとるなくたてのひらめなづらにほりけけつ。

隣懸ノ意シ古キ詞シ。メグヤ
 君が戀ニ死ニセントモヨメルン
 大人モ様ニ居
 給フ身ナトシ

るなみとるなみとるなくたてのひらめなづらにほりけけつ。
 古キ詞シ。メグヤ
 うきもめとるなみとるなくたてのひらめなづらにほりけけつ。
 やまおとふにらむらむとていふ人より侍。
 へはとおほえしにたつとてぬおにささむらむとていふ人より侍。
 よしゆのい人におそりゆく。ひらめなづら田舎ノを。
 へさおとつかさふはにあの目も唐ふる。
 したるなみとるなくたてのひらめなづらにほりけけつ。
 たはととてくぬとてぬおにささむらむとていふ人より侍。
 やまおとふにらむらむとていふ人より侍。
 うきもめとるなみとるなくたてのひらめなづらにほりけけつ。

行次

九

丁度たたく嗚声し俗ニ どりーびもさく だおほくおなく だぐま

まほにんかひんりもあ〜 昔りた〜まねのくに おふあが
里ぬほぞいとふる だ

まほのこもてい だおろし だおろし だおろし だおろし だおろし

まじのくあし だおろし だおろし だおろし だおろし だおろし

は〜か〜い だおろし だおろし だおろし だおろし だおろし

ふらたほよく〜日一日中 だおろし だおろし だおろし だおろし だおろし

ひ〜日〜日 だおろし だおろし だおろし だおろし だおろし

あお日 だおろし だおろし だおろし だおろし だおろし

まき舟 だおろし だおろし だおろし だおろし だおろし

ま〜巴 だおろし だおろし だおろし だおろし だおろし

次に だおろし だおろし だおろし だおろし だおろし

かの だおろし だおろし だおろし だおろし だおろし

いほに だおろし だおろし だおろし だおろし だおろし

まほに だおろし だおろし だおろし だおろし だおろし

なほに だおろし だおろし だおろし だおろし だおろし

かゝるあはれははるはる

みちとあやふあ

おのれはむじろくしりしもの影もかくまで

かに思ふてあはれにけがれをまひたてはるる世に

御人のうらりおなく事をかまへばをたくみあぬ人をはと

そとをさしめもせむさくみ

のぞみしゆりかくせむうのけがれはえいせむちたはせ

るやあまはむしりおひたせしことたへむさうは

「スル」

「片哥」

タハレト

「白」

「旋頭歌」

「雜言」

「非情」

「サ」

「サ」

変化ノ類
うかぬのいもせよおぼやまのうたはなかなひつひの

あはれおそくははれおぼはのうも持とよふらよあかきひと

ひぬ影をほげしもの影もてるくしむまはまほぞ今かほ

あやしに下はゆほしひつ淵にもあらしをぬいづらむあはれ

りんが
如此正道ヲ以テ人ニ辨ニトスル者ヲ容易ニ思ヒテナド黙心ヲ
以テ大スルト云意アリ。三六次ニ明暗ノ論ヲ出サガタシ

よまあやしと火とりてあらしをささるるをさめがいでく

よりて又水をかたけみよるるをさしけるをいふあやしと

先づらねぬらちをほにまめくしむさうかいたんは

悪はあまびもろくはみぞをいづくはび君を見あはれは
 此の世のひらきまごころ世の人あはれをよの
この俳諧
附合ナシ
 かくもきこひまひをぬはるまよひくはさるひきり
 をまへはうぶく君をばりけりあまきさのひらき
 せいのひらきまごころをばりけりあまきさのひらき
 すくおとよひのひらきまごころをばりけりあまきさのひらき
闇キ俳諧ノ道ニ陥リテコト面白シト思ヒニタルヲバ
何トシテアキラカナル道ニ出ル其方便ナキヤト嘆ク向フ
 何とてアキラカナル道ニ出ル其方便ナキヤト嘆ク向フ
 女答云我片哥ヨミタルハ設ケテ
 ヨミタルニモアラス不意ニ出タルナリ

秀きとせぬは誰人をすくひはせさるる
 ていづをあらはに
我今道トスルハ暗キ取ニ人ヲヒキイルヲ宗トスルユ正ニ
ニテモ明ラカナル出ス方便ナシラヌトコトニ行女婦ト
狐ト俳人ト道ノ
相似タルヲ云フ
 まごおりお君うげをいせもあらぬ人
君カ此道ト指タルハ今ハ哥トシテ正セハ取ノ
道シ暗キ道トハ是ヲ正シ改弁ル俳諧ヲ云フ
 下は久く暗きまにあらぬ
イヌ
オホキ
 あまごひけりまごころをばりけりあまきさのひらき
又暗キ俳諧ニ入テアツク者ハオホク
事ヲ正シ明ニカナル道ヲチ者ハナキ
 かくもきこひまひをぬはるまよひくはさるひきり
 をまへはうぶく君をばりけりあまきさのひらき
 せいのひらきまごころをばりけりあまきさのひらき
 すくおとよひのひらきまごころをばりけりあまきさのひらき

えいぞいびるひまをいつひのくはるびへともおほいせ

大人モ一トタビハ其暗キ俳諧ノ道ニ迷ヒシ人シ然レ其道ノ非ナルヲ知テコレヲ心ニ
問ヒ求メ今明ヲカナル道ニ出テ其迷ヒル人ヲ共ニ道トカントシ至フユ心アルベキ人コノ
教ヘニモウケシトオモホモトシされどもあはれきまをさすて人をまじりけをるむひつこき

サブルコ
コハ梅行女婦
ノ世ワタル道ニ

とれせばあをのうけくハ世にあたらつををさすド
事ヨセテ暗キ取ヲ以テ人ヲ教ユル師範ヲサス然ルハ人ヲ惑ハシテ業トスル道ヲ
今カレ出テハ外ニ明ヲカナル道ニ在テ世ニチカラヘアルキ術ヲ知ラズ下段ヲ見令
嘘ノ人のあましくあをびりりもあまき路にいざうたてむひとハあま

アルハ俳諧ヲ以テ人ヲアヤムルヲ知ラスコレヲ好ム人又ハ門人
等ヲ集メ謾リ九言ヲ吐テ業トスル故ニ人モ明キ道非トセ

みーくはるあはれいたるもおほいせあまき人あまき路

おひむ一日もせをさるはづいづいづいづいにまはつのはる然レドモ
スコレハ

善悪ノ取ヲトキテ又人モアラジ故ニ其言ガ身ヲ
省ヒ心ハツカニキコモアレ強テ教ヘサレバ人暴ハズ

俳諧ノ多きを捨テ其書をあにたし読むいとくきふと

されどあひひふ二世のほろにありト大人ノ願ヒハカル大儀ナレハ
一世ニ景ベキ物ニアラシ後世

ノ賢者ヲ待テトシさては火は焚理にうそいでたりきふ来にうそあま

とらふレコレ大人ノ未来記ナラシ故ニ
記ハサズ唯地理ニヨリタリト知ル月も星もはわけくあま

とや初夜とやもさるし

みまのうらみもさるしあまのうらみもさるしあまのうらみもさるし

戸部省の御用

あつたや

みちのや

子をたもつてゐるまゝ

夏の「舞」

西羊人志す古事記八千矛神サヌツリひーがたぢいぬ

堂宇白木子丹杉路もキツヒトヨムナトアリひーがたぢいぬ

あまひやが

なご一母のは「困スル」ひーがたぢいぬ

附言

おの冊子サウシの巻末アマタリウシに「毛ぬの國コシヤノ城シヤノを築

ひーがたぢいぬウシヤノひーがたぢいぬウシヤノひーがたぢいぬウシヤノ

ひーがたぢいぬウシヤノひーがたぢいぬウシヤノひーがたぢいぬウシヤノ

ひーがたぢいぬウシヤノひーがたぢいぬウシヤノひーがたぢいぬウシヤノ

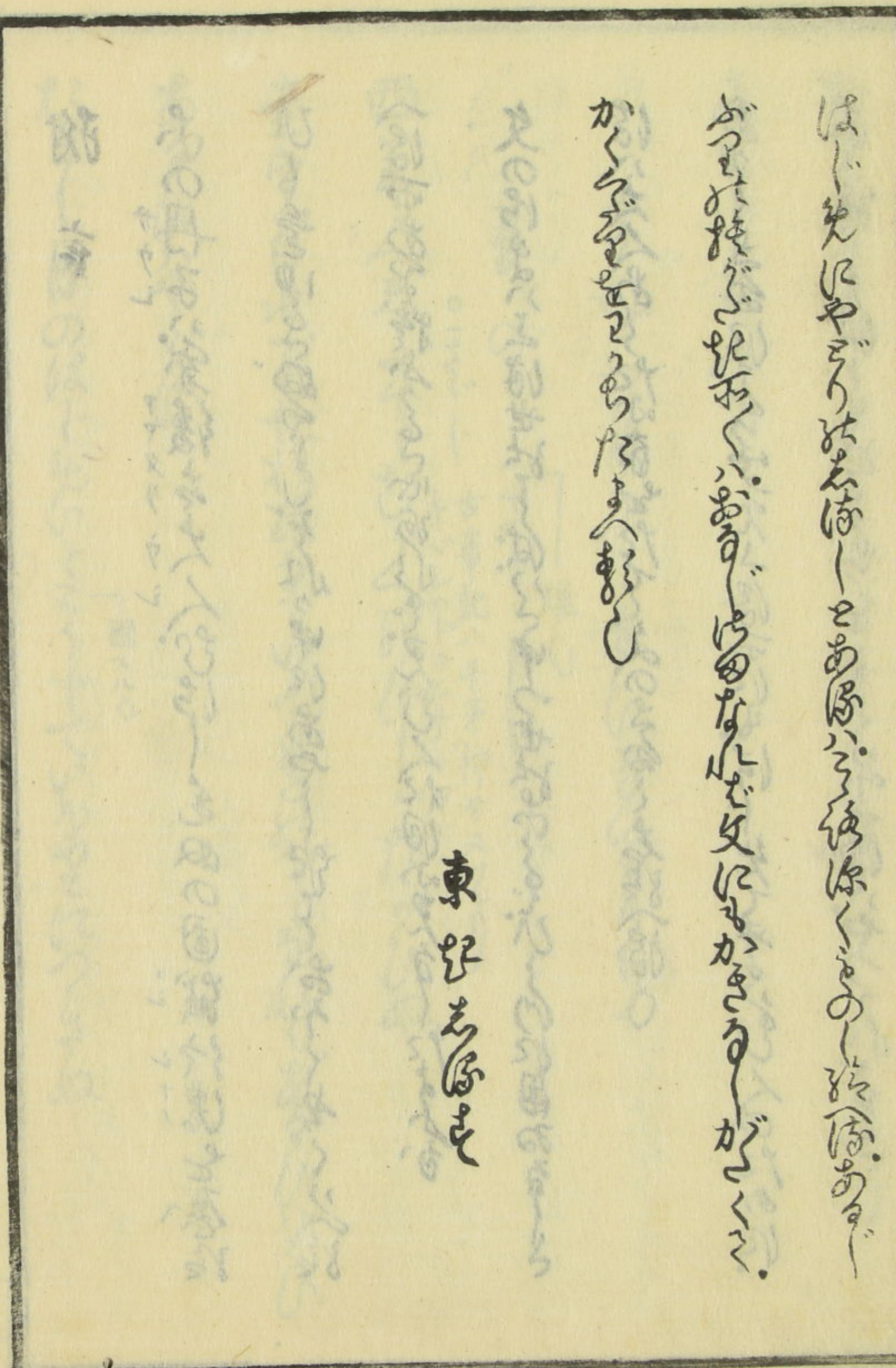
ひーがたぢいぬウシヤノひーがたぢいぬウシヤノひーがたぢいぬウシヤノ

ひーがたぢいぬウシヤノひーがたぢいぬウシヤノひーがたぢいぬウシヤノ

ひーがたぢいぬウシヤノひーがたぢいぬウシヤノひーがたぢいぬウシヤノ

はし先じやごりぬまはしとあまのうらみはくものたはあま
 かつたはごりぬまはしとあまのうらみはくものたはあま
 かくごりぬまはしとあまのうらみはくものたはあま

東にさるる



大坂書林庶寫献可堂藏版目錄

庶寫 庶寫 庶寫

七才子詩集 小本 一冊

發蒙書東式 三冊

伊勢參宮名所志 六冊

同 掌故 三冊

傷寒五法 五冊

繪本廿四孝 冊

同 註解 二冊

茶道七事式 二冊

盆石圖式 三冊

同 國字解 二冊

町見辨疑 五冊

茶湯い 一冊

同 七律解 二冊

三界一心記 一冊

農家心得草 一冊

詩法授幼抄 小本 一冊

將棊指覺抄 小本 二冊

狂歌芳分船 一冊

詩對類語 全 一冊

神代古訓抄 冊

狂歌芳分船 一冊

詩家法語 全 一冊

神代古訓抄 冊

狂歌芳分船 一冊

斧介集 全 一冊

將棊指覺抄 小本 二冊

狂歌芳分船 一冊

詩對類語 全 一冊

神代古訓抄 冊

狂歌芳分船 一冊

詩家法語 全 一冊

神代古訓抄 冊

狂歌芳分船 一冊

書目録

和歌桐火桶 二冊

新元集 一冊

名媛新集 二冊

同拾遺 二冊

其角新集 二冊

同元集 四冊

貞徳御抄 二冊

同元集 五冊

頓町日獲句 一冊

芭蕉反古文 二冊

休六 雅文消息 一冊

半化坊数白集 二冊

携良七教集 一冊

月の歌 一冊

武七歌 一冊

書目録

俳諧小づち 一冊

同季歌歌 二冊

同季歌歌 一冊

同拾遺 一冊

同小外 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

同拾遺 一冊

瓢水発句集 二冊

蘇村登白集 二冊

柳菴句集 一冊

西質集 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

他拾遺 一冊

三帖御和賛 暁中抄本 抄本
西流の御章とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

釋迦如來一代記口吹 全八冊
如來一代の有徳太夫とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

三教經緯 四冊
三教の經緯とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

三聖利益傳 五冊
三聖の利益傳とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

漁倉屋中同書 一冊
漁倉屋の中同書とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

夷神同書 一冊
夷神の同書とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

日 洋記 二冊
日洋の記とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

經學字源海傍覽 三冊
經學の字源海傍覽とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

唐詩帖 廣澤書 一冊
唐詩の帖とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

古詩帖 日書 一冊
古詩の帖とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

扱の記 鳥石書 一冊
扱の記とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

國字帖 日書 全一冊
國字の帖とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

熟字府 天山書 二冊
熟字の府とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

はなとく 北村季吟著 八冊
はなとくとて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

鴨長明並名抄 長明作 二冊
鴨長明の並名抄とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

少の及らる 中井菴著 一冊
少の及らるとて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

氷たるべし 皆川淇園著 二冊
氷たるべしとて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

播磨巡り 小本一冊
播磨の巡りとて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

開卷一笑 全三冊
開卷の一笑とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

茶湯名物記 全三冊
茶湯の名物記とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

俳諧浪谷風流 全三冊
俳諧の浪谷風流とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

俳諧初心 全一冊
俳諧の初心とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

俳諧三部経 全五冊
俳諧の三部経とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

日めくは集 全四冊
日めくはの集とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

裁名便覽 懷中抄本
裁名の便覽とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

東野州聞書 全三冊
東野州の聞書とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

茶若羅茶集 全三冊
茶若羅の茶集とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

繪本二十四孝 全一冊
繪本の二十四孝とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

法橋玉山画 全一冊
法橋玉山の画とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

同増補二十四孝 全二冊
同増補の二十四孝とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

諸國武邊嘯 全六冊
諸國の武邊嘯とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

諸國武邊嘯 全六冊
諸國の武邊嘯とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

諸國武邊嘯 全六冊
諸國の武邊嘯とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

諸國武邊嘯 全六冊
諸國の武邊嘯とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

諸國武邊嘯 全六冊
諸國の武邊嘯とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

數箇室鑑 二冊
數箇室の鑑とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

便用瓶 一冊
便用の瓶とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

煎茶仕用集 一冊
煎茶の仕用集とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

萬葉塵功祀 一冊
萬葉の塵功祀とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

十養担歌集 二冊
十養担の歌集とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

和漢朗詠集 鳥石書 二冊
和漢の朗詠集とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

天文八卦抄 一冊
天文の八卦抄とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

漁倉實記 十三冊
漁倉の實記とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

和漢朗詠集 鳥石書 二冊
和漢の朗詠集とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

刪笑府 全一冊
刪笑の府とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

應州社末抄 二冊
應州社の末抄とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

應州社末抄 二冊
應州社の末抄とて、その下に付上段下段、
三つ折りにて、その下に付上段下段、

二十六秋仙全冊

藤仲寺を絶の傑五十六人
画像のよきもの
ゆゑに村の書物を法より

將軍家譜全部十冊

茲道春著
ひのふゝ画入

多るの独り

多るの独り
多るの独り
多るの独り

墨書画手本全冊

墨書画手本全冊
ひのふゝ画入
ひのふゝ画入

繪本童子教 全部五冊

淡橋三山画

見ゆと直く備釈と云はば
まけと知るゆりて終むと
終て教訓するの面白き事

繪本款討者女傳全部六冊

淡橋三山画

此の書は七巻ありて
のりけ官職の事
あつたまの事
をいふ事
をいふ事

繪本実徳教童子教 全一冊

淡橋三山画

室所教訓治世の法
をいふ事
をいふ事

繪本武將勳功記 全部十二冊

中井藍江画

大塚より藤州家傳との
名をいふ事
をいふ事

繪本名不順覽圖會 全部五冊

中井藍江画

行状記をいふ事
をいふ事
をいふ事

盤陸禪師法語 全一冊

盤陸禪師法語

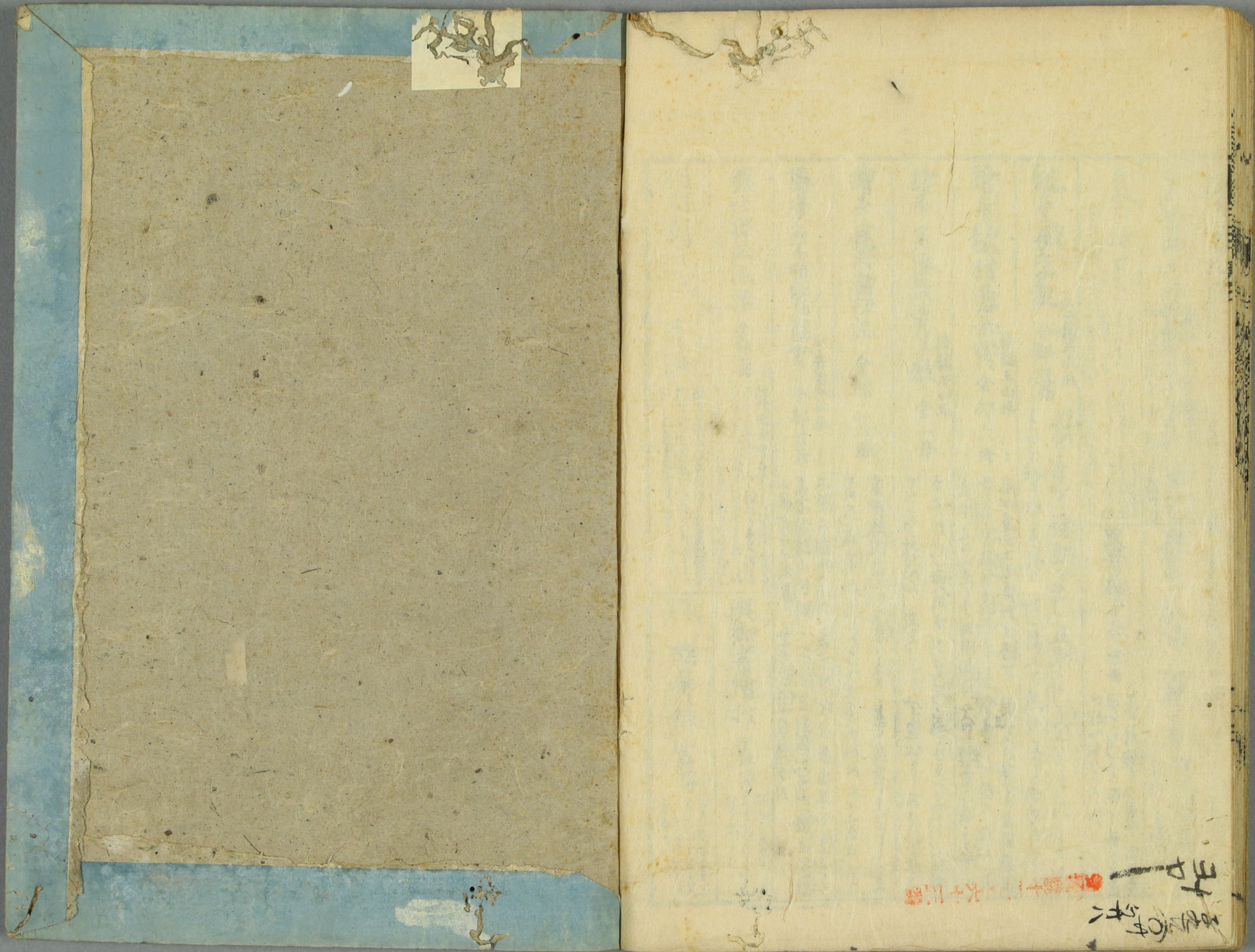
興御書繪本 全一冊

月白引

全一冊

月白引
全一冊





Small piece of tape or label on the left page.

Handwritten text in Chinese characters, including a red stamp, located at the bottom right of the right page.

